

## 『古代からの伝言』

八木荘司著／角川文庫

『古代からの伝言』全7巻の表題は以下の通り：

- 1 日本建国
- 2 民族の雄飛
- 3 悠久の大和
- 4 日出ずる国
- 5 水漬くかばね
- 6 壬申の乱
- 7 我が国家成る

日本は現在地球上に存在する国家の中で最も古い国であるが、このことは高校までの日本史では教えてくれない。その建国にも膨大な物語があるが、それも学校では教えてくれない。学校の日本史では、縄文、弥生時代があって、卑弥呼がチラッと見えて、いつの間にか統一国家ができて聖徳太子が現れる。『古事記』、『日本書紀』には神話と建国の物語が書かれているが、学校では「記紀」の存在だけ教えて、内容については「禁断の書」のように扱う。挙げ句には、『日本書紀』は天武持統朝の正当性と権威を高めるために書かれたものだから内容は創作であるとか、偽書であるとまで言う場合もある。これは戦前の皇国史観への反動と敗戦および占領のトラウマから来る「自虐史観」によるところが大きいであろう。

『日本書紀』が書かれたのは今から1300年近く前である。1300年の長きにわたって我々の先祖は「価値のない書物」あるいは「偽書」を現在まで伝えてきたのであろうか。長いときを越えた自らの歴史書が存在するにもかかわらず、我々は他国の歴史書で自国の歴史を語らねばならないのだろうか。

『古代からの伝言』は、『日本書紀』が可能な限り誠実に書かれた歴史書である、という立場を第一に取り、最近の考古学的成果や中国の歴史書も参考に、邪馬台国の話や神武東征の話から始めて律令国家の成立まで（神話部分は含まれていない）の日本古代史を、小説仕立てで書いた「史伝」である。『日本書紀』そのものは図書館に行けば見ることはできるが、漢文と読み下し文と膨大な注釈から成っており、読んでみようと思うにはハードルが高すぎる。『古代からの伝言』は『日本書紀』に登場する歴史上の人物が小説の登場人物のように喋り行動しながら古

---

代史を紡いでいくので、古文、漢文読解の煩わしさに悩まされることなく歴史物語を読み進めていくことができる。

邪馬台国と大和朝廷、日本古代史をちょっとでもかじった人間なら、その関係を不思議に思い、調べてみると様々な説が錯綜していて迷路に入ってしまうが、本書ではある程度トータルに話が纏まっている。

「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙なきや。云々」隋書倭国伝に遺されている、隋の煬帝に聖徳太子が送ったとされる国書は、世界帝国隋の皇帝に、東アジアの片隅の小国の君主が送った、身の程知らずなほど超強気な手紙、とされることが多いが、それほど彼我に国力の差や意識の差があったのか、実はそうでもなかったのではないか、との指摘には目から鱗が落ちた。

今年は皇紀（初代神武天皇の即位を元年と数える暦）2669年であるとされる（従って皇紀元年は西暦紀元前660年）。初期の天皇の寿命が超人的なまでに長すぎることに、紀元前660年の建国は、考古学的にはあり得ないとされることから、『日本書紀』が創作であるとする説の根拠の一つとなっているのであるが、本書では仮説を立てて論証し、根拠を持って神武天皇の即位を西暦紀元後181年としている。どのような論証を行っているかは本書を読んでみて欲しい。

海外に出ると、日本の歴史、日本の皇室の存在感の大きさに気づかされる。日本は、先進国の中で唯一、神話の時代から続く皇室を戴く国である。機会があれば、自国の建国の物語を誇りを持って語って良いと思う。

## 執筆者紹介

内田 希

物質・材料系准教授。専門領域は、無機化学、量子化学。

---

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『古代からの伝言』全7巻 八木荘司著 角川文庫 2007年 4,420円

ブックガイド目次へ